

a. ウィーン会議

① 1814～15 ([1 **ウィーン**]会議…[2 **フランス革命**]や[3 **ナポレオン**]戦争の戦後処理が目的  
→領土と[4 **社会秩序**]面の2つの側面  
新しい考え方([5 **自由**]主義や[6 **ナショナリズム**])がヨーロッパやアメリカ大陸に広がった。  
古い支配者→世界は混乱させられた。→どのように立て直すか!!

自由主義…封建的・前近代的な制度や慣習からの精神的・政治的・経済的自由を求める立場。[7 **宗教**]  
]の自由、[8 **身分**]制度の廃止、ギルドの廃止や[9 **自由**]貿易拡大など経済の自由などをめざした。  
近代的な[10 **ブルジョワジー**] (資本家)を中心とする考え。

ナショナリズム…国民・[11 **民族**]として意識された政治的共同体の自己主張をさす。19世紀において  
は分裂国家における[12 **民族国家**]の統一や被支配民族の強国からの独立などの[13 **国民**]主義  
がその内容とされる。

- [14 **国家統一**]をめざす動き=[15 **ドイツ**]、イタリア
- 異民族支配からの独立をめざす動き  
[16 **ポーランド**] (←ロシアなどから)  
ハンガリー、ベーメン、(イタリア)など (←[17 **オーストリア**]から)  
[18 **ギリシア**]、ブルガリア、セルビアなど (←[19 **オスマン帝国(トルコ)**]から)

[20 **保守**]主義…旧来の慣習や伝統を重んじる立場。この時期は、自由主義やナショナリズムに反対し  
国王や皇帝など[21 **絶対主義**]的政治体制や[22 **身分**]制を維持しようとする立場をさす。

②ウィーン会議(1814～[23 **1815**]) フランス革命と[24 **ナポレオン**]戦争の戦後処理を実施  
ア) 主宰者 オーストリア外相の[25 **メッテルニヒ**] =保守主義の立場  
イ) 中心的な理論 [26 **フランス**]代表のタレーランが主張した[27 **正統**]主義  
(+絶対主義的な[28 **勢力均衡**]の原理)

正統主義…[29 **ウィーン**]会議に代表の[30 **タレーラン**]が提案、了承された理念。  
内容= 31 **フランス革命以前の国際秩序を正統とし、その状態への復帰をめざす** という考え方。

ウィーン会議による領土の変更など

- フランス、[32 **スペイン**]…[33 **ブルボン**]朝の国王が復活
- ロシア…フィンランドなどを領土に、[34 **ポーランド**]王をかねる
- オランダ…[35 **オーストリア領ネーデルラント**]併合(オーストリアから)
- イギリス…セイロン(スリランカ)や[36 **ケープ**]植民地を獲得(オランダから)
- オーストリア…[37 **イタリア北部**]に植民地を獲得→ベネツィア共和国は消滅
- [38 **ドイツ連邦**] =35の君主国、2自由市から形成←[39 **神聖ローマ帝国**]に代わるもの

1789年以降のフランス革命や[40 **ナポレオン**]戦争はそれまでのヨーロッパの秩序を大きく破壊した。こうした処理のため、[41 **1814**]年開催されたのが[42 **ウィーン**]会議である。この会議はオーストリア外相の[43 **メッテルニヒ**]が中心となり、新たな国境の決定とともに、各地に広がっていった[44 **ナショナリズム(民族主義)**]や[45 **自由**]主義の風潮をいかにおさえていくかが大きな課題となった。会議ではフランス代表の[46 **タレーラン**]が提案、了承されたフランス革命以前の国際秩序を正統としその状態への復帰をめざすという[47 **正統**]主義を中心に、18世紀的な絶対主義的国際秩序を維持しようとする[48 **保守**]主義的な立場でまとめられた。こうして生まれてきた保守的・反動的な国際秩序を[49 **ウィーン**]体制という。

③19世紀の世界…[50 **イギリス**] (世界最大の経済力と海軍)と[51 **ロシア**] (大陸軍国)が支える

④ウィーン体制=ウィーン会議で成立した[52 **反動的**] [53 **絶対主義的**]な国際秩序  
→[54 **自由**]主義と[55 **ナショナリズム**]を抑圧する体制  
ア) [56 **神聖**]同盟=[57 **ロシア**]皇帝アレクサンドル1世の提唱  
目的:キリスト教的友愛の精神で君主が協力すること = 58 \_\_\_\_\_  
大部分の君主国が参加 ([59 **イギリス**]・[60 **トルコ**]・ローマ教皇は不参加)

イ) 四国同盟=イギリス提唱、参加国 61 **英・露・プロシヤ・オーストリア** 1818 フランス参加(五国同盟)  
目的:ナポレオン復活に備える→のち大国の勢力均衡による国際秩序の安定を図る→イギリス脱退

⑤ウィーン体制への反抗→いずれも弾圧される  
ア) 1817[62 **ブルシェンシャフト**]運動=ドイツ統一をめざす学生たちの運動←カールスバード決議  
イ) [63 **スペイン**]の立憲主義運動  
ウ) 1820年代…[64 **カルボナリ**]運動=イタリア統一をめざす秘密結社の運動  
エ) [65 **ロシア**]の青年士官による自由主義反乱未遂 ([66 **デカブリストの乱**])

ウィーン会議では[67 **イギリス**] [68 **ロシア**] [69 **オーストリア**] [70 **プロシヤ**]により[71 **四国**]同盟が結成され、また[72 **ロシア**]のアレクサンドル1世の提唱によりヨーロッパの大部分の国が参加する[73 **神聖**]同盟もつくられた。これ以後、自由主義やナショナリズムはこうした同盟の名によってつぎつぎ弾圧された。[74 **スペイン**]での立憲制への改革をめざす運動、[75 **ドイツ統一**]をめざす学生たちの運動、[76 **イタリア**]統一をめざす運動、[77 **ロシア近代化**]を要求する青年士官の反乱などがそれである。